

5. ソースマーキングによるメリット

小売店が POS システムを採用して省力化、商品管理の効率化をめざすためには、商品にその基礎ともなるコードを表示することが重要になります。

ソースマーキングの実施により、次の様なメリットが考えられます。

(1) 流通サイド

- ① 個々の小売店でのインストアマーキングの手間がなくなること。
- ② POS システムにより、より正確、詳細な単品情報が迅速に得られ、販売・在庫・仕入などの管理精度が向上すること。
- ③ ソースマーキングの普及によって、POS システム機器の量産化を誘導でき、結果として高品質、安価な機器が使用できること。

(2) メーカー、販売会社サイド

- ① POS システムを導入する個々の小売業などから、さまざまな種類のシンボル貼付、ソースマーキングの要請を受けることが避けられること。
- ② 統一商品コードによる取引情報交換により、事務作業の重複の回避、ミスの減少なども期待できること。
- ③ POS システムを通じて、正確・詳細な販売情報が迅速に得られるようになり、その結果適正な商品供給などが期待できること。

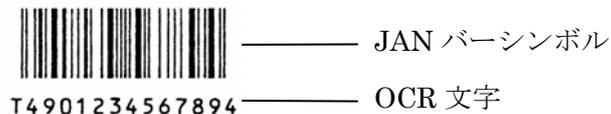
このように、統一商品コードによるソースマーキングの実施は、業界全体にとって、極めて効果の大きいものであるといえるでしょう。

6. 家電業界におけるソースマーキングに関するとり決め

(1) 方法

家電製品のソースマーキングは、耐久消費財の標準シンボルである OCR 用文字 (Optical Character Recognition=光学式文字認識) と、JAN バーシンボルを併記表示する形で統一されました。また、OCR 用文字のファンクションコードとして、標準コードに **T** を、短縮コードに **F** を使用します。

OCR と JAN バーシンボルの併記表示 (例)



但し、一部大型商品及び工事を伴う商品等には、ソースマーキングをしないこともあります。この場合ファンクションコードは不要となります。